

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月12日

【四半期会計期間】 第65期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 石垣食品株式会社

【英訳名】 ISHIGAKI FOODS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小西 一幸

【本店の所在の場所】 東京都千代田区飯田橋1丁目4番1号

【電話番号】 03-3263-4444

【事務連絡者氏名】 経理総務部 課長 鈴木 晃

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区飯田橋1丁目4番1号

【電話番号】 03-3263-4444

【事務連絡者氏名】 経理総務部 課長 鈴木 晃

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第64期 第2四半期 連結累計期間	第65期 第2四半期 連結累計期間	第64期
会計期間		自2020年4月1日 至2020年9月30日	自2021年4月1日 至2021年9月30日	自2020年4月1日 至2021年3月31日
売上高	(百万円)	1,430	1,267	2,798
経常損失()	(百万円)	58	59	138
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失()	(百万円)	38	70	108
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	40	70	116
純資産額	(百万円)	327	25	45
総資産額	(百万円)	615	879	1,082
1株当たり四半期(当期) 純損失金額()	(円)	5.44	6.20	15.28
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	53.5	2.9	4.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	56	58	37
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	39	2	146
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2	93	497
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	79	337	490

回次		第64期 第2四半期 連結会計期間	第65期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自2020年7月1日 至2020年9月30日	自2021年7月1日 至2021年9月30日
1株当たり四半期純損失金額()	(円)	0.68	3.52

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前第2四半期連結会計期間並びに前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。
3. 第64期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。第64期及び第65期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある以下の事項が発生しております。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 事業の継続性に重要な疑義を生じさせるような状況について

当社グループは、前連結会計年度まで8期連続して親会社株主に帰属する当期純損失を計上していること、当第2四半期においても状況が改善されていないこと、及び、それらに伴って当第2四半期連結会計期間末日において債務超過となったことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループとしては、当該状況を早期に改善・解消すべく対処を行っております。

飲料事業及び珍味事業においては、ブランド露出拡大、新商品の投入や既存商品の刷新、新規取扱先の開拓を継続して行うほか、他社との協業によるダイバーシティの促進等による営業活動の改善、資本・業務提携を締結したベジタリア株式会社との商品開発や営業展開における協業等により事業採算の改善を図っております。

加えて珍味事業においては、中国国内市場向けのビーフジャーキーが2021年4月から販売開始したことや、第三者割当増資の引受先や取締役とのコネクションを活かした事業活動を行っております。

インターネット通信販売事業は黒字化を果たしましたが、更なる増収に向けた活動と、負担の大きい外部委託費用の圧縮による採算改善に努めてまいります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高1,267,217千円（前年同四半期比11.4%減）、営業損失52,372千円（前年同四半期は営業損失67,462千円）となりました。経常損益は、営業外損益において前期に計上された補助金収入13,072千円がなくなった反動と、子会社における情報漏洩に伴う損害賠償費用が雑損失として1,202千円計上されたことから経常損失59,745千円（前年同四半期は経常損失58,475千円）となりました。最終損益は、特別損益において前期に計上された子会社株式売却益20,881千円がなくなった反動と子会社が保有する投資有価証券について市場価格が大幅に下落したことに伴う投資有価証券評価損9,628千円の計上があったことから、親会社株主に帰属する四半期純損失70,877千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失38,455千円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

飲料事業

主力の麦茶は、7月は増収となったものの、9月上旬の関東地方の記録的冷夏の影響を受け、通期では微減となりました。ごぼう茶は、競争環境の激化に伴う減収傾向に歯止めがかからず、減収幅が拡大しております。杜仲茶は昨年8月にテレビの健康番組で取り上げられた影響から大幅な増収が続き、反動による減収は生じておりませんが、放映から1年を経たことで増収効果が一巡いたしました。

以上の結果、飲料事業合計では売上高63,899千円（前年同四半期比7.3%減）となりました。

損益面では、工場稼働率の低下が続いたことから、飲料事業合計では、営業損失917千円（前年同四半期は営業利益630千円）と営業赤字に転落いたしました。

珍味事業

ビーフジャーキーは、自社ブランド商品が微減となったものの、OEM商品が増収となったことに加え、中国国内販売として日本企業の中国子会社店舗への販売が開始されたことが寄与し、珍味事業合計では売上高111,258千円（前年同四半期比30.6%増）となりました。

損益面では、工場稼働率は改善したものの、主原料である牛肉価格の国際的な高騰や、円安による採算悪化の影響から、珍味事業合計では営業損失10,637千円（前年同四半期は営業損失7,321千円）と赤字幅が拡大いたしました。

インターネット通信販売事業

自社会員制卸売サイトでの販売、大手インターネット通信販売サイトでの販売ともに減収となり、インターネット通信販売事業は売上高1,078,086千円（前年同四半期比14.8%減）と減収となっております。

損益面においては、粗利率の高い商品を優先的に取扱う体制としたことで売上総利益率は前期に比べ向上しており、配送費用や外注費用の削減も一定の効果を得ることができたものの、その他費用の負担が重く、営業利益7,766千円（前年同四半期比32.7%減）となりました。

その他

だしのもとでの大幅な減収が続く中、業務用ナルト及びサプリメント商品とも当第2四半期会計期間において売上がなかったことから、売上高13,972千円（前年同四半期比766.8%増）、営業損失118千円（前年同四半期は営業利益16千円）と営業赤字に転落いたしました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、主に親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により、総資産は879,720千円（前連結会計年度末は1,082,693千円）、負債は905,373千円（前連結会計年度末は1,037,356千円）、純資産は債務超過25,653千円（前連結会計年度末は45,337千円）、自己資本比率は2.9%（前連結会計年度末は4.2%）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末より153,517千円減少し、337,375千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは58,131千円の使用(前年同四半期は56,349千円の使用)となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失の計上があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは2,001千円の使用(前年同四半期は39,226千円の使用)となりました。これは主に有形固定資産等の取得による支出があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは93,617千円の使用(前年同四半期は2,217千円の使用)となりました。これは主に長期借入金の返済による支出があったこと及び長期並びに短期借入金の借入による収入があったこと等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、4,552千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	11,437,300	11,437,300	東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)	単元株式数 100株
計	11,437,300	11,437,300		

(注) 提出日現在発行数には、2021年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数(株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金残高 (千円)
2021年7月1日～ 2021年9月30日		11,437,300		816,169		516,169

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
辛 澤	大阪府大阪市北区	4,369,000	38.2
INTERACTIVE BROKERS LLC (常任代理人 インタラクティブ ・ブローカーズ証券(株))	ONE PICKWICK PLAZA GREENWICH, CONNECTICUT 06830 米国 (東京都千代田区霞が関3丁目2番5号)	1,491,100	13.0
石垣 裕義	東京都文京区	696,500	6.1
MONEX BOOM SECURITIES (H.K.) LIMITED - CLIENTS' ACCOUNT (常任代理人 マネックス証券(株))	25/F., AIA TOWER, 183 ELECTRIC ROAD, NORTH POINT 香港 (東京都港区赤坂1丁目12-32)	653,800	5.7
(株)石垣共栄会	東京都文京区白山5丁目24番10号	338,000	3.0
石垣 靖子	東京都文京区	209,500	1.8
J.P.MORGAN SECURITIES PLC (常任代理人 J P モルガン証券(株))	25 BANK STREET CANARY WHARF LONDON 英国 (東京都千代田区丸の内2丁目7番3号 東京ビルディング)	122,600	1.1
井上 絵美	東京都港区	100,000	0.9
楽天証券(株)	東京都港区南青山2丁目6番21号	88,100	0.8
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNYM GCM CLIENT ACCTS M ILM FE (常任代理人 (株)三菱UFJ銀行)	2 KING EDWARD STREET, LONDON EC1A 1HQ 英国 (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	84,506	0.7
計		8,153,106	71.3

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,434,100	114,341	
単元未満株式	普通株式 1,500		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	11,437,300		
総株主の議決権		114,341	

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式 数の合計 (株)	発行済株式総数に対す る所有株式数の割合 (%)
石垣食品株式会社	東京都千代田区飯田橋1丁目4番1号	1,700		1,700	
計		1,700		1,700	

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、仁智監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	500,892	347,375
受取手形及び売掛金	173,688	175,154
商品及び製品	170,263	115,302
原材料及び貯蔵品	19,930	28,389
その他	13,915	12,602
貸倒引当金	3	4
流動資産合計	878,686	678,818
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	0	0
機械装置及び運搬具（純額）	0	0
土地	0	0
建設仮勘定	-	177
その他（純額）	328	656
有形固定資産合計	328	834
無形固定資産		
その他	4,491	4,113
無形固定資産合計	4,491	4,113
投資その他の資産		
投資有価証券	179,825	176,977
その他	19,361	18,976
投資その他の資産合計	199,186	195,953
固定資産合計	204,006	200,901
資産合計	1,082,693	879,720

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	199,471	163,363
未払金	54,245	16,282
短期借入金	19,100	79,100
1年内返済予定の長期借入金	266,453	158,192
リース債務	1,535	1,562
未払法人税等	5,816	6,058
賞与引当金	3,487	3,199
その他	34,432	37,497
流動負債合計	584,542	465,255
固定負債		
長期借入金	446,059	435,831
リース債務	3,941	3,153
その他	2,812	1,132
固定負債合計	452,813	440,117
負債合計	1,037,356	905,373
純資産の部		
株主資本		
資本金	816,169	816,169
資本剰余金	569,462	569,462
利益剰余金	1,325,469	1,396,347
自己株式	782	782
株主資本合計	59,379	11,498
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,710	24,930
為替換算調整勘定	17,668	10,775
その他の包括利益累計額合計	14,041	14,154
純資産合計	45,337	25,653
負債純資産合計	1,082,693	879,720

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	1,430,157	1,267,217
売上原価	968,338	855,435
売上総利益	461,819	411,782
販売費及び一般管理費	1 529,281	1 464,154
営業損失()	67,462	52,372
営業外収益		
受取利息	9	2
受取配当金	1,523	1,523
補助金収入	13,072	-
雑収入	4,240	22
営業外収益合計	18,846	1,548
営業外費用		
支払利息	4,690	4,160
為替差損	19	4
株式交付費償却	2,748	-
雑損失	2,401	4,756
営業外費用合計	9,860	8,921
経常損失()	58,475	59,745
特別利益		
子会社株式売却益	20,881	-
特別利益合計	20,881	-
特別損失		
投資有価証券評価損	-	9,628
特別損失合計	-	9,628
税金等調整前四半期純損失()	37,593	69,373
法人税、住民税及び事業税	862	1,504
法人税等合計	862	1,504
四半期純損失()	38,455	70,877
親会社株主に帰属する四半期純損失()	38,455	70,877

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失()	38,455	70,877
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,212	6,780
為替換算調整勘定	1,784	6,893
その他の包括利益合計	2,427	113
四半期包括利益	40,883	70,990
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	40,883	70,990
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	37,593	69,373
減価償却費	2,373	578
投資有価証券評価損益(は益)	-	9,628
関係会社株式売却損益(は益)	20,881	-
賞与引当金の増減額(は減少)	207	288
受取利息及び受取配当金	1,533	1,526
支払利息	4,690	4,160
為替差損益(は益)	19	4
売上債権の増減額(は増加)	9,095	1,399
棚卸資産の増減額(は増加)	12,955	48,492
仕入債務の増減額(は減少)	28,565	38,506
その他	5,577	6,004
小計	52,195	54,234
利息及び配当金の受取額	1,533	1,526
利息の支払額	4,690	4,160
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	996	1,262
営業活動によるキャッシュ・フロー	56,349	58,131
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	102	543
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	38,229	-
その他	893	1,458
投資活動によるキャッシュ・フロー	39,226	2,001
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	5,000	60,000
長期借入れによる収入	177,500	60,865
長期借入金の返済による支出	183,983	179,354
リース債務の返済による支出	733	760
その他	-	34,367
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,217	93,617
現金及び現金同等物に係る換算差額	135	233
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	97,929	153,517
現金及び現金同等物の期首残高	177,625	490,892
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 79,695	1 337,375

【注記事項】

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度まで8期連続して親会社株主に帰属する当期純損失を計上していること、当第2四半期においても状況が改善されていないこと、及び、それらに伴って当第2四半期連結会計期間末日において債務超過となったことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループとしては、当該状況を早期に改善・解消すべく対処を行っております。

飲料事業及び珍味事業においては、ブランド露出拡大、新商品の投入や既存商品の刷新、新規取扱先の開拓を継続して行うほか、他社との協業によるダイバーシティの促進等による営業活動の改善、資本・業務提携を締結したベジタリア株式会社との商品開発や営業展開における協業等により事業採算の改善を図ってまいります。

加えて珍味事業においては、中国国内市場向けのピーフジャーキーが2021年4月から販売開始したことや、第三者割当増資の引受先や取締役とのコネクションを活かした事業活動を行ってまいります。

インターネット通信販売事業は黒字化を果たしましたが、更なる増収に向けた活動と、負担の大きい外部委託費用の圧縮による採算改善に努めてまいります。

しかし、これらの施策は実施途上であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められません。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、従来は販売促進費として販売費及び一般管理費に計上していた売上割戻金額を売上高から控除する方法に会計処理を変更しております。当該会計方針の変更は、原則として遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第2四半期連結累計期間の売上高並びに販売費及び一般管理費は31,944千円減少しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は以下のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
販売促進費	322,757千円	290,521千円
給料手当	59,729	47,201
賞与引当金繰入額	3,707	3,052

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金勘定	89,695千円	347,375千円
担保提供している定期預金	10,000	10,000
現金及び現金同等物	79,695	337,375

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	飲料事業	珍味事業	インター ネット通信 販売事業	外食店舗 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	68,959	85,207	1,265,025	9,353	1,428,546	1,611	1,430,157		1,430,157
セグメント間の内部売上高又は振替高									
計	68,959	85,207	1,265,025	9,353	1,428,546	1,611	1,430,157		1,430,157
セグメント利益又はセグメント損失()	630	7,321	11,539	28,034	23,185	16	23,168	44,293	67,462

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ナルト事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 44,293千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 44,293千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「外食店舗事業」において、当第2四半期連結会計期間に株式会社エムアンドオペレーションの全株式を譲渡したことにより、当第2四半期連結会計期間の期首時点をもって同社を連結除外しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、31,786千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	飲料事業	珍味事業	インター ネット通信 販売事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	63,899	111,258	1,078,086	1,253,244	13,972	1,267,217	-	1,267,217
セグメント間の 内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	63,899	111,258	1,078,086	1,253,244	13,972	1,267,217	-	1,267,217
セグメント利益又は セグメント損失()	917	10,637	7,766	3,788	118	3,907	48,465	52,372

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ナルト事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 48,465千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 48,465千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益又は損失の算定方法により作成したものを記載しております。

また、前連結会計年度において、外食店舗事業から撤退したことから、第1四半期連結会計期間より「外食店舗事業」セグメントを廃止しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	5円44銭	6円20銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	38,455	70,877
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	38,455	70,877
普通株式の期中平均株式数(株)	7,066,521	11,435,521

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため、記載しておりません。当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月12日

石垣食品株式会社
取締役会 御中

仁智監査法人
東京都中央区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 内 藤 泰 一 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 戸 谷 隆 太 郎 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている石垣食品株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、石垣食品株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

継続企業の前提に関する重要な不確実性

継続企業の前提に関する注記に記載されているとおり、前連結会計年度まで8期連続して親会社株主に帰属する当期純損失を計上していること、当第2四半期においても状況が改善されていないこと、及び、それらに伴って当第2四半期連結会計期間末日において債務超過となったことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しており、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる。なお、当該事象又は状況に対する対応策及び重要な不確実性が認められる理由については当該注記に記載されている。四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な不確実性の影響は四半期連結財務諸表に反映されていない。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。